

「B.革新」が日本全体に与える影響について

——アリーナ建設の現状と今後の課題——

社会学部現代社会学科 2122075

指導教員 野上 玲子

氏名 松本 莉緒

要旨

日本のバスケットボール界は今、史上最高の盛り上がりを見せている。日本唯一のプロバスケットボールリーグである「B.LEAGUE」は、2016年に開幕して以来、年々高い人気を誇っている。そんなB.LEAGUEでは、開幕11年目を迎える2026-27シーズンに向けてリーグ構造の改革である「B.革新」を行うべく進化を続けている。そこで、本論文では、バスケットボールの歴史やB.LEAGUE誕生までの流れから、B.革新と「スタジアム・アリーナ改革」、「アリーナ基準」の関係性について論じ、検証する。この研究の主な問いは、「「B.革新」によって建設されたアリーナが地域や日本全体にどのような影響を与えているのか」である。研究の概要は、前半では「スタジアム・アリーナ改革」や「アリーナ基準」について文献調査を行い、後半では、実際のクラブの取り組みについて、フィールドワーク調査とアンケート調査の結果をもとに検討する。

第1章では、本論文における、問題提起と研究目的、研究方法、構成を明確に示す。

第2章では、日本のバスケットボールの現状を理解するために、日本のバスケットボールの歴史やB.LEAGUE誕生までの流れについてまとめる。さらに、B.LEAGUEで行われようとしている改革について詳しく調べ、今後のB.LEAGUEがどのように進化するかについてまとめる。

第3章では、B.LEAGUEの改革の発端になったスポーツ庁の「スタジアム・アリーナ改革」の概要について調べる。また、その中で改革のモデルとされている「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」において、B.LEAGUEとの関連について調べ、スタジアム・アリーナの現状について考察する。

第4章では、「B.革新」の核となっている「アリーナ」について、一般社団法人アリーナスポーツ競技会が発行する「アリーナ基準」をもとに、B.LEAGUEにおけるアリーナ事情について考察する。

第5章では、実際のB.LEAGUEに所属する2チームの新アリーナについてフィールドワーク調査とアンケート調査をもとに考察する。

第6章では、第2章から第5章までで述べた内容をもとに、第1章で述べた疑問について結論を述べる。